

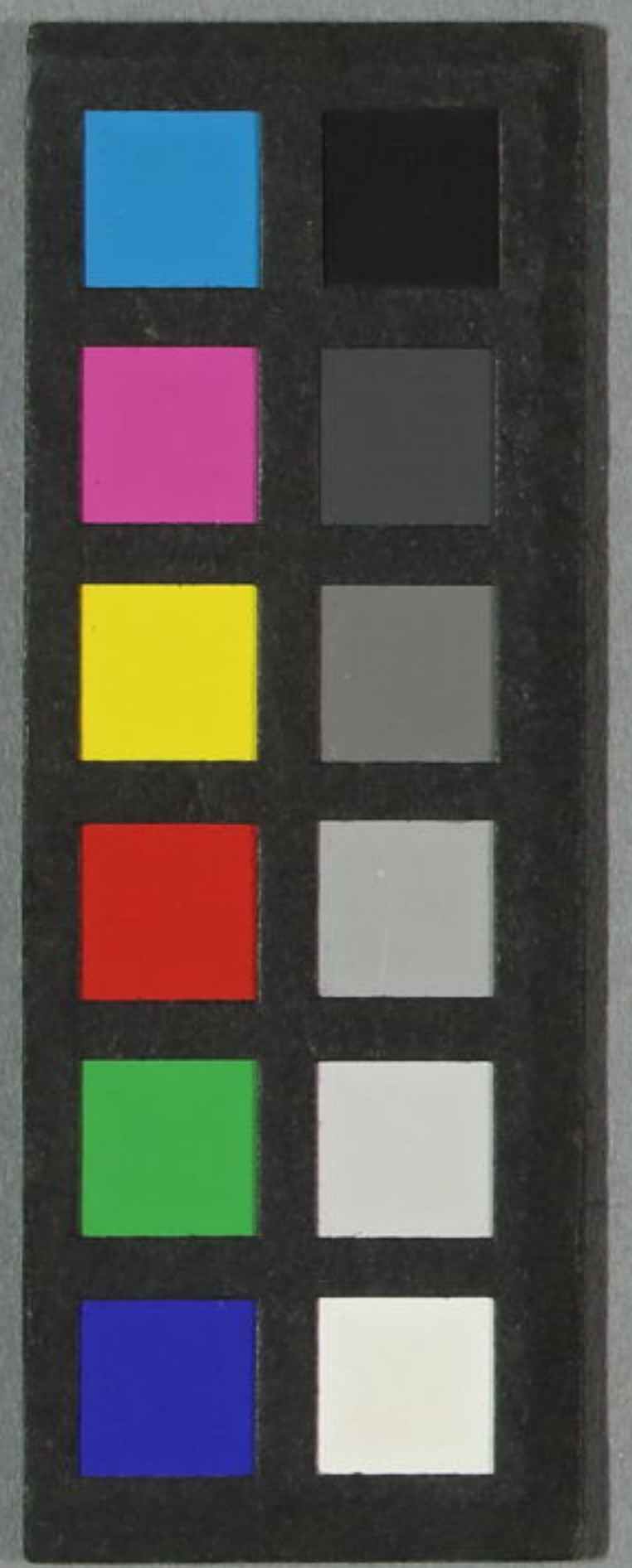
6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6

十通舎一丸

多びがらす

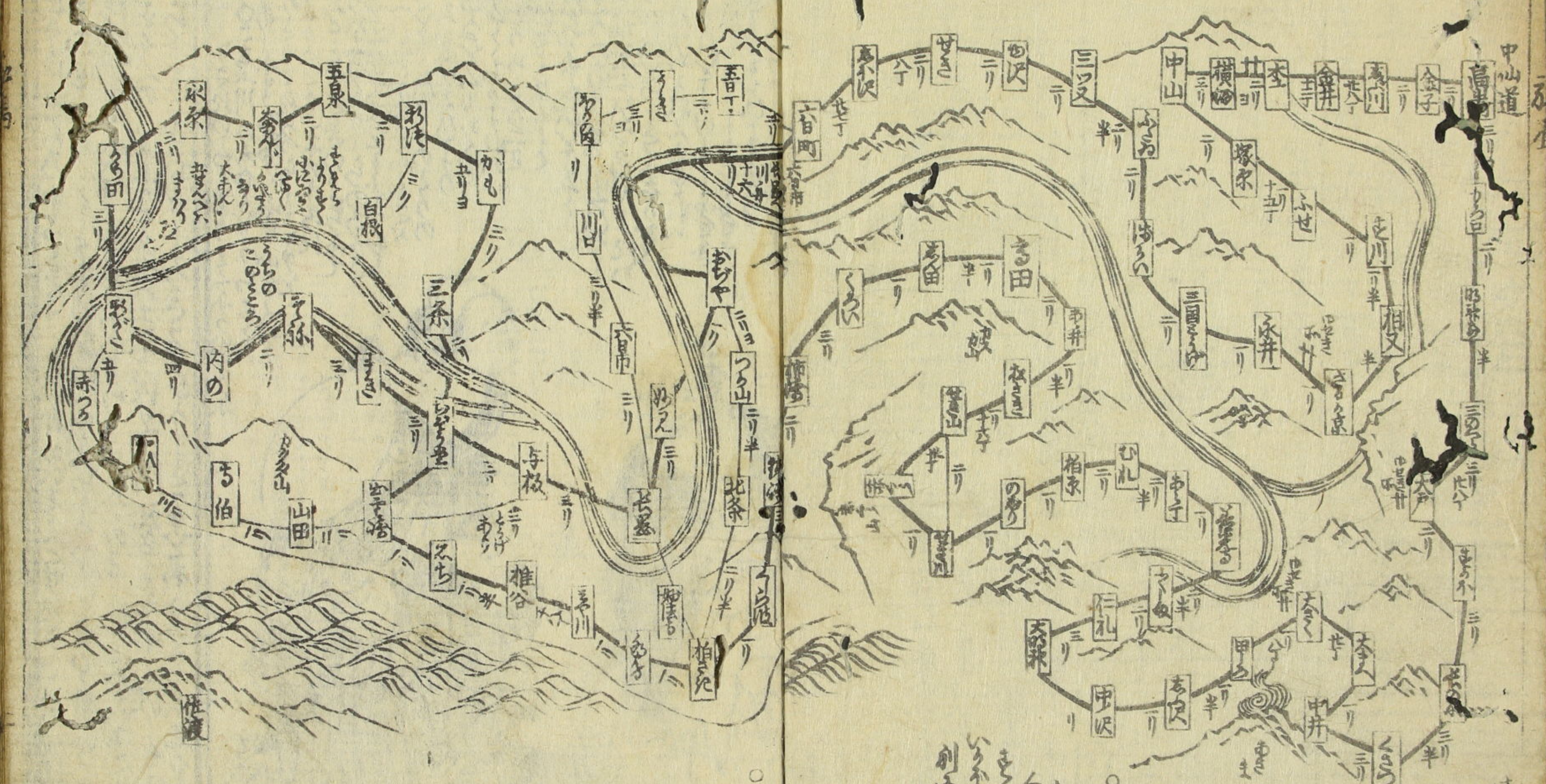
金乃わらじ

~ 13
4253



W

太夏遊歷之地理界圖



中山道
三河
美濃
尾張
...

○各六丁
...

附言

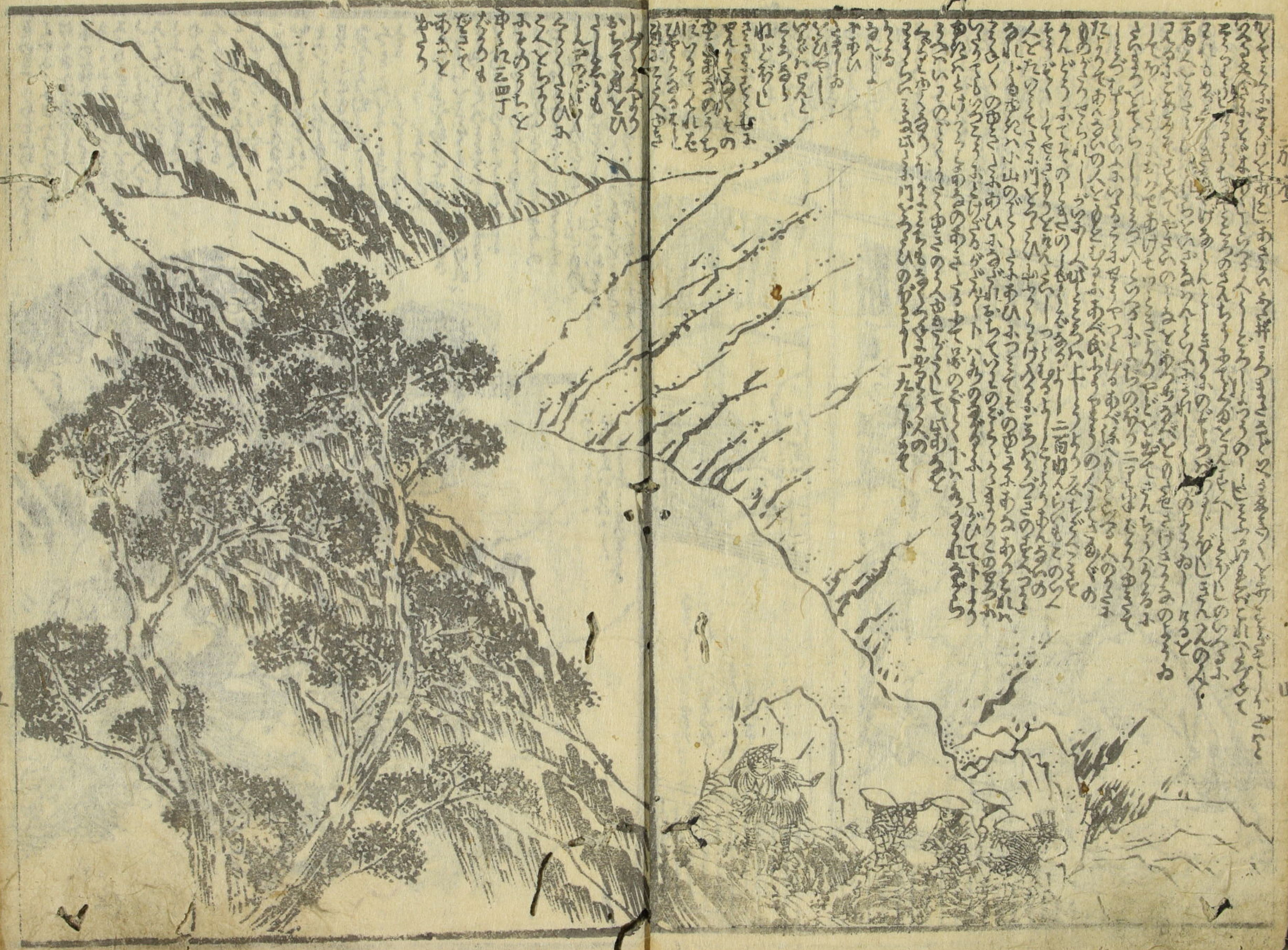
田舎りし中... 附言の... 田舎りし中... 附言の... 田舎りし中... 附言の...

ふやふや... 田舎りし中... 附言の... 田舎りし中... 附言の...



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百





Handwritten Japanese text in vertical columns at the top of both pages, likely serving as a title or introductory text for the scenes depicted.

Handwritten Japanese text in vertical columns surrounding the illustrations, providing commentary or dialogue for the scenes.

馬場

九





此の物語は、
 昔の事である。
 昔の人は、
 山を好んで、
 山に遊び、
 山に暮らす。
 山には、
 いろいろな動物が、
 住んでいる。
 その中でも、
 犬は、
 人間の友達として、
 大切にされている。
 この物語は、
 犬の忠義を、
 説くものである。
 昔の人は、
 犬を、
 家族の一員として、
 大切にしていた。
 犬は、
 人間の命を、
 守るために、
 命を犠牲にする。
 この物語は、
 犬の忠義を、
 説くものである。
 昔の人は、
 犬を、
 家族の一員として、
 大切にしていた。
 犬は、
 人間の命を、
 守るために、
 命を犠牲にする。
 この物語は、
 犬の忠義を、
 説くものである。
 昔の人は、
 犬を、
 家族の一員として、
 大切にしていた。
 犬は、
 人間の命を、
 守るために、
 命を犠牲にする。
 この物語は、
 犬の忠義を、
 説くものである。



此の物語は、
 昔の事である。
 昔の人は、
 山を好んで、
 山に遊び、
 山に暮らす。
 山には、
 いろいろな動物が、
 住んでいる。
 その中でも、
 犬は、
 人間の友達として、
 大切にされている。
 この物語は、
 犬の忠義を、
 説くものである。
 昔の人は、
 犬を、
 家族の一員として、
 大切にしていた。
 犬は、
 人間の命を、
 守るために、
 命を犠牲にする。
 この物語は、
 犬の忠義を、
 説くものである。
 昔の人は、
 犬を、
 家族の一員として、
 大切にしていた。
 犬は、
 人間の命を、
 守るために、
 命を犠牲にする。
 この物語は、
 犬の忠義を、
 説くものである。
 昔の人は、
 犬を、
 家族の一員として、
 大切にしていた。
 犬は、
 人間の命を、
 守るために、
 命を犠牲にする。
 この物語は、
 犬の忠義を、
 説くものである。



そのわらわはあつた
まゝにうらやま
あつたわらわはあつた
まゝにうらやま
あつたわらわはあつた
まゝにうらやま

あつたわらわはあつた
まゝにうらやま
あつたわらわはあつた
まゝにうらやま
あつたわらわはあつた
まゝにうらやま

あつたわらわはあつた
まゝにうらやま
あつたわらわはあつた
まゝにうらやま
あつたわらわはあつた
まゝにうらやま

あつたわらわはあつた
まゝにうらやま
あつたわらわはあつた
まゝにうらやま
あつたわらわはあつた
まゝにうらやま

あつたわらわはあつた
まゝにうらやま
あつたわらわはあつた
まゝにうらやま
あつたわらわはあつた
まゝにうらやま



このおのの
いひのこ
まのこ
このおのの
いひのこ
まのこ
このおのの
いひのこ
まのこ
このおのの
いひのこ
まのこ

このおのの
いひのこ
まのこ
このおのの
いひのこ
まのこ
このおのの
いひのこ
まのこ
このおのの
いひのこ
まのこ



このおのの
いひのこ
まのこ
このおのの
いひのこ
まのこ
このおのの
いひのこ
まのこ
このおのの
いひのこ
まのこ

このおのの
いひのこ
まのこ
このおのの
いひのこ
まのこ
このおのの
いひのこ
まのこ
このおのの
いひのこ
まのこ

このおのの
いひのこ
まのこ
このおのの
いひのこ
まのこ
このおのの
いひのこ
まのこ
このおのの
いひのこ
まのこ

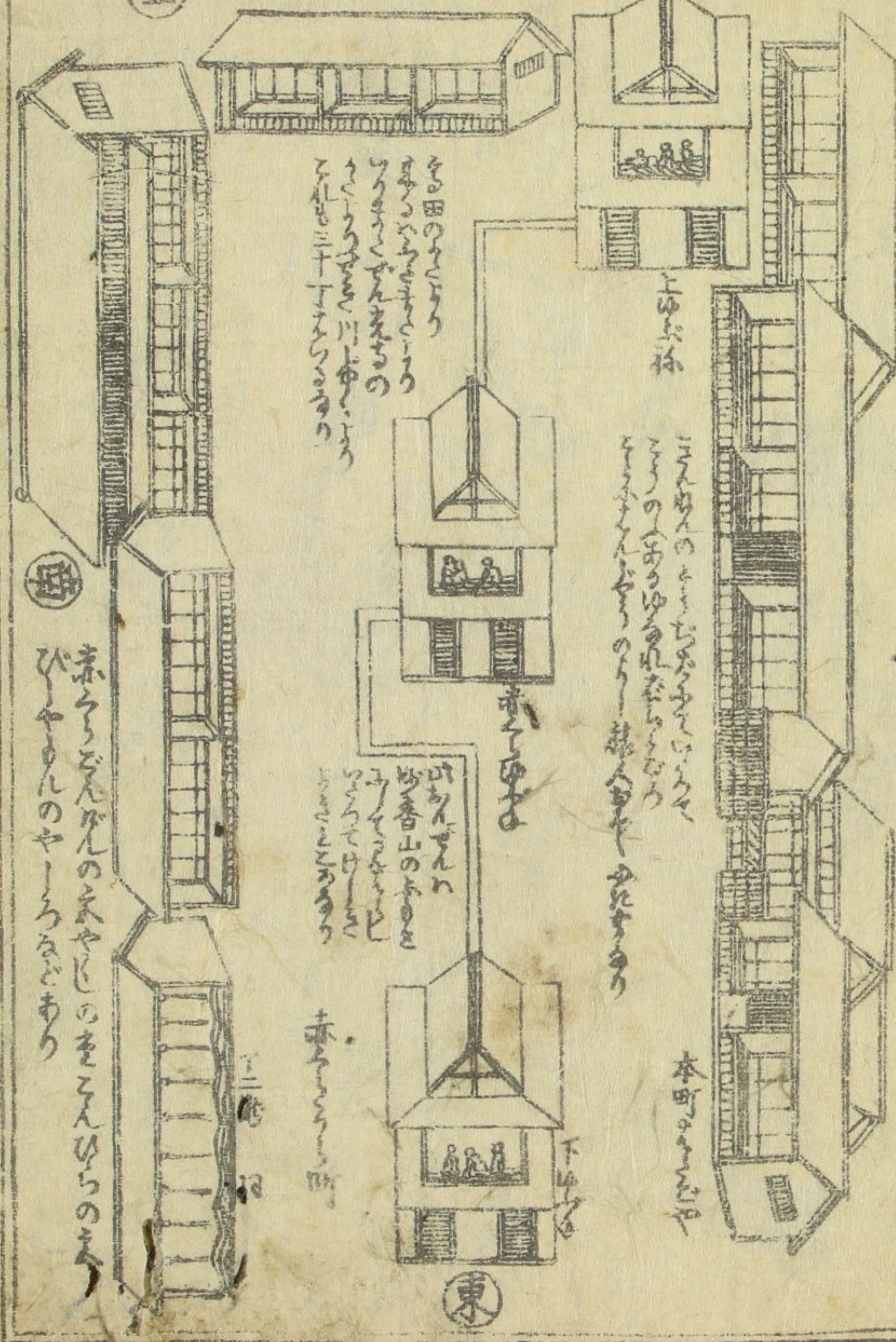


此の世に於ては...
 人の心は...
 世の常は...
 人の情は...
 世の理は...
 人の行は...
 世の法は...
 人の言は...
 世の徳は...
 人の徳は...
 世の徳は...



此の世に於ては...
 人の心は...
 世の常は...
 人の情は...
 世の理は...
 人の行は...
 世の法は...
 人の言は...
 世の徳は...
 人の徳は...
 世の徳は...

赤倉温泉之圖



赤倉温泉の湯屋のまやしのまをくまひらのま
びやのんのやうなとあり

赤倉温泉の湯屋のまやしのまをくまひらのま
びやのんのやうなとあり

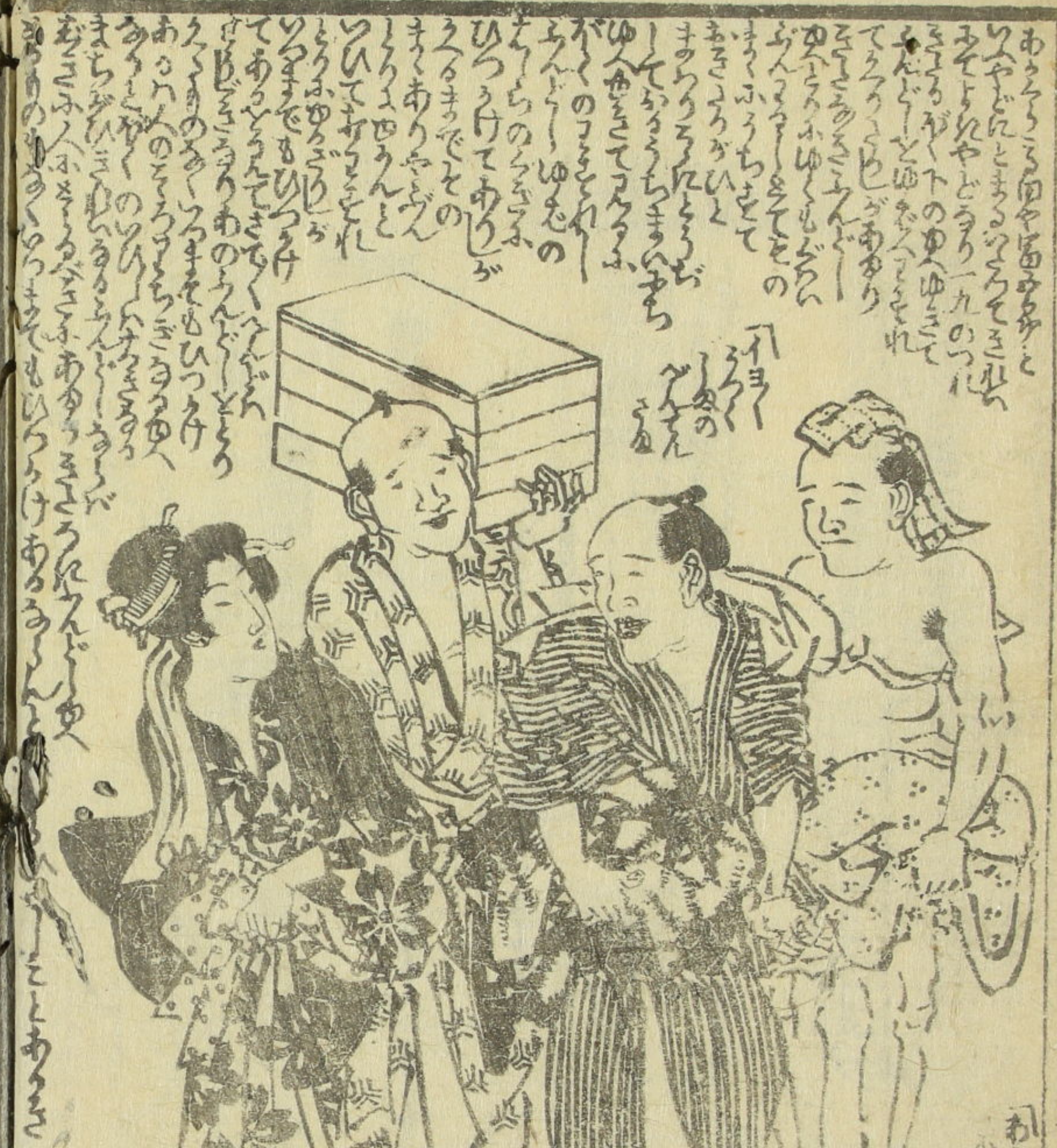


赤倉温泉の湯屋のまやしのまをくまひらのま
びやのんのやうなとあり

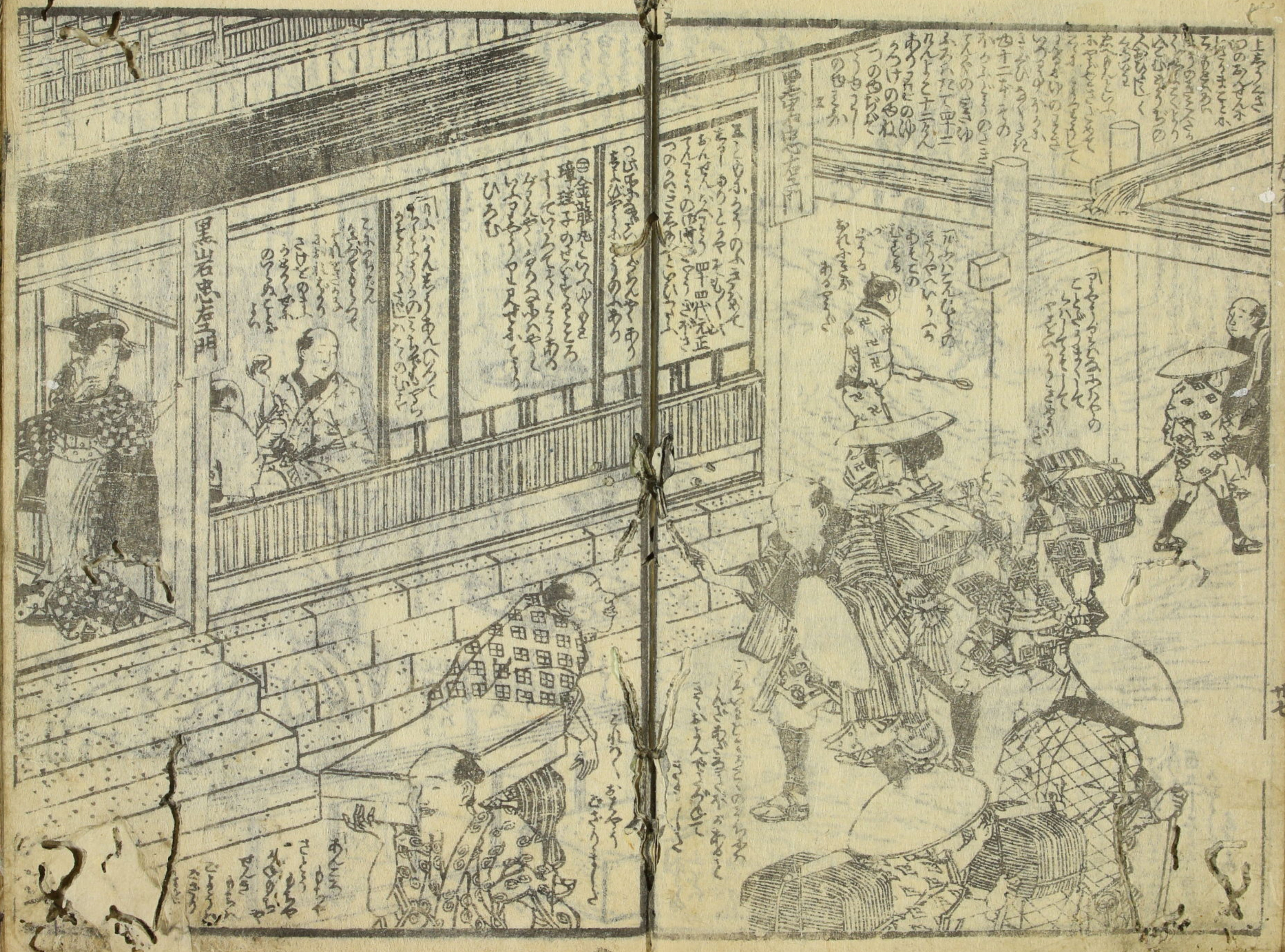
赤倉温泉の湯屋のまやしのまをくまひらのま
びやのんのやうなとあり



あつちとつるのやがらふみ
 りやんんとまのつらふて三
 りやんんとまのつらふて三
 りやんんとまのつらふて三
 りやんんとまのつらふて三
 りやんんとまのつらふて三
 りやんんとまのつらふて三
 りやんんとまのつらふて三



あつちとつるのやがらふみ
 りやんんとまのつらふて三
 りやんんとまのつらふて三
 りやんんとまのつらふて三
 りやんんとまのつらふて三
 りやんんとまのつらふて三
 りやんんとまのつらふて三
 りやんんとまのつらふて三



上馬...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

加屋

黒山石店在門

...
...
...
...
...

黒山石店在門

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...



あつちして人の
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ

あつちして人の
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ

あつちして人の
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ

あつちして人の
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ

あつちして人の
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ

あつちして人の
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ

あつちして人の
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ

あつちして人の
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ

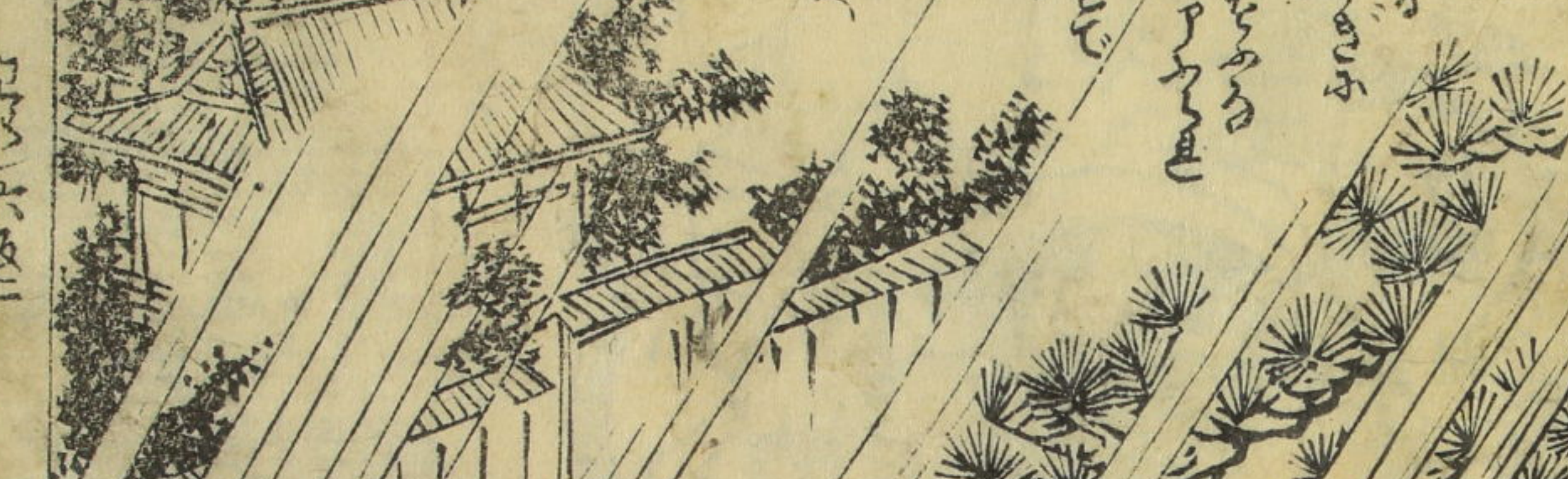
あつちして人の
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ
ふりまよひのほと
ゆるぎなきこと
よふたかえりぬ



二ノ本

○それより二ノ本中のの
いふやうにこの本
はけちやらのうら
まの二つにうら
ゆまてはれらる
あつたはるはちう
ゆめはらふのひん
ついでにうらわさ
くしてはうらわさ
このうらわさの
こそこのあつら
あつらうら
うらうら
うら
うら
うら

○それより二ノ本中のの
いふやうにこの本
はけちやらのうら
まの二つにうら
ゆまてはれらる
あつたはるはちう
ゆめはらふのひん
ついでにうらわさ
くしてはうらわさ
このうらわさの
こそこのあつら
あつらうら
うらうら
うら
うら
うら



ひつとて
あつら
うら
うら
うら

ひつとて
あつら
うら
うら
うら



かまのいせしち
ごかしん
りくまはるか
かまのいせしち
ごかしん
りくまはるか

匠者ごのへ
しりぞるけ
うねの
るね
るね

あつむし
あつむし
あつむし
あつむし
あつむし



あつむし
あつむし
あつむし
あつむし
あつむし

あつむし
あつむし
あつむし
あつむし
あつむし

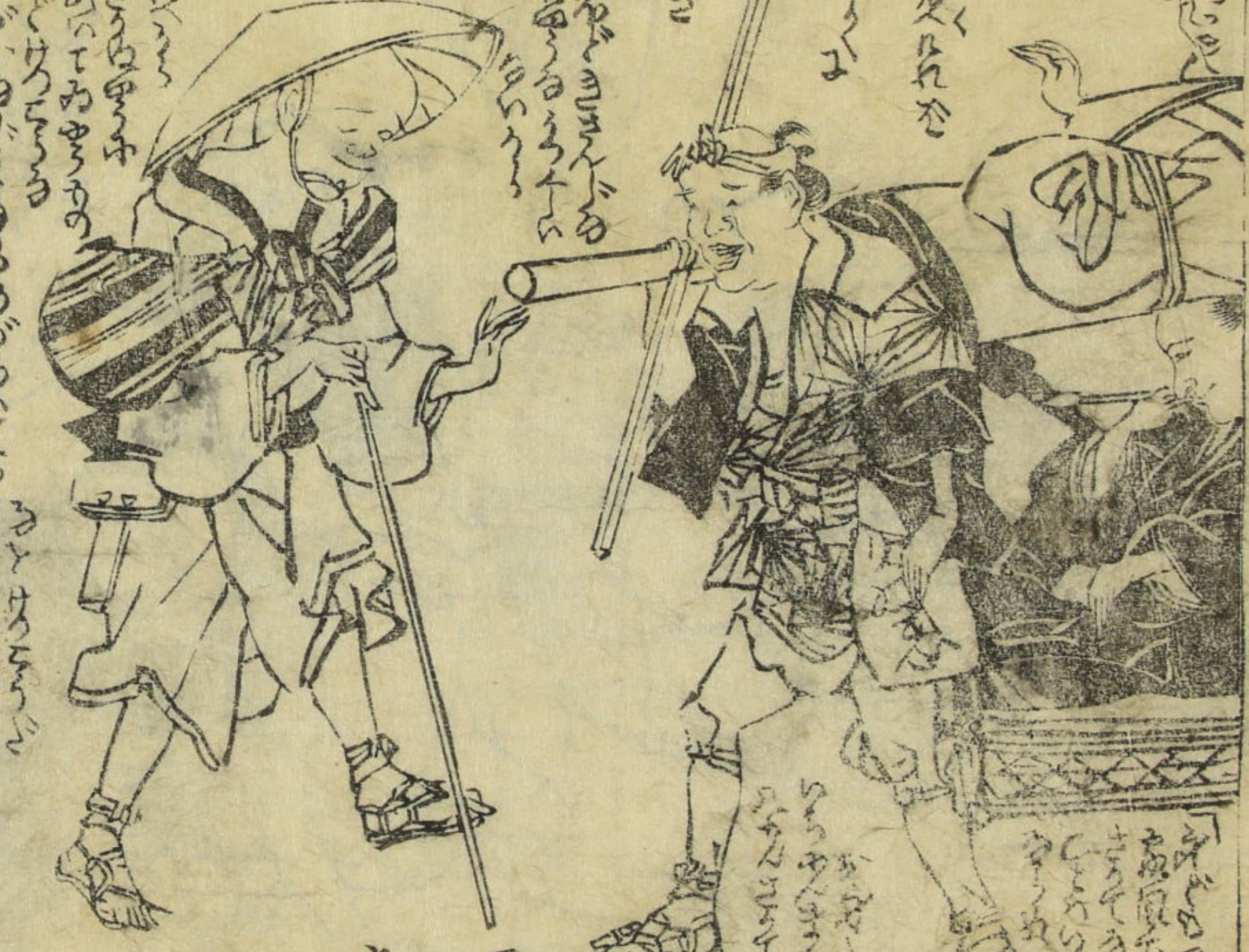
あつむし
あつむし
あつむし
あつむし
あつむし

あつむし
あつむし
あつむし
あつむし
あつむし

若宮



○この山は
若宮の山
と云ふ
此の山は
若宮の山
と云ふ
此の山は
若宮の山
と云ふ



○この山は
若宮の山
と云ふ
此の山は
若宮の山
と云ふ
此の山は
若宮の山
と云ふ

根子町



○この山は
根子の山
と云ふ
此の山は
根子の山
と云ふ
此の山は
根子の山
と云ふ

○この山は
根子の山
と云ふ
此の山は
根子の山
と云ふ
此の山は
根子の山
と云ふ

福々 鳴

ついでにや
あまのしるし
よりのしるし
あまのしるし
あまのしるし
あまのしるし

後徳か
せの上
きさの
みん板
きびの
さの谷
大以
出羽



紙の
紙の
紙の
紙の
紙の
紙の
紙の
紙の
紙の
紙の

ひん
ひん
ひん
ひん
ひん
ひん
ひん
ひん
ひん
ひん



豊心丹
丸

今
今
今
今
今
今
今
今
今
今



おかしな世の中をあたためての人の
 まつりあつてつるまの心
 せんきありてあらつてあり
 けんがのしんか二つあり

おもひこころありこれい
 ささうけうごいの
 ささうごいせ地
 ささうごいせ地

(左) 景色あり あり
 ささうごいせ地
 ささうごいせ地

舟の
 ささうごいせ地

おかしな世の中をあたためての人の
 まつりあつてつるまの心

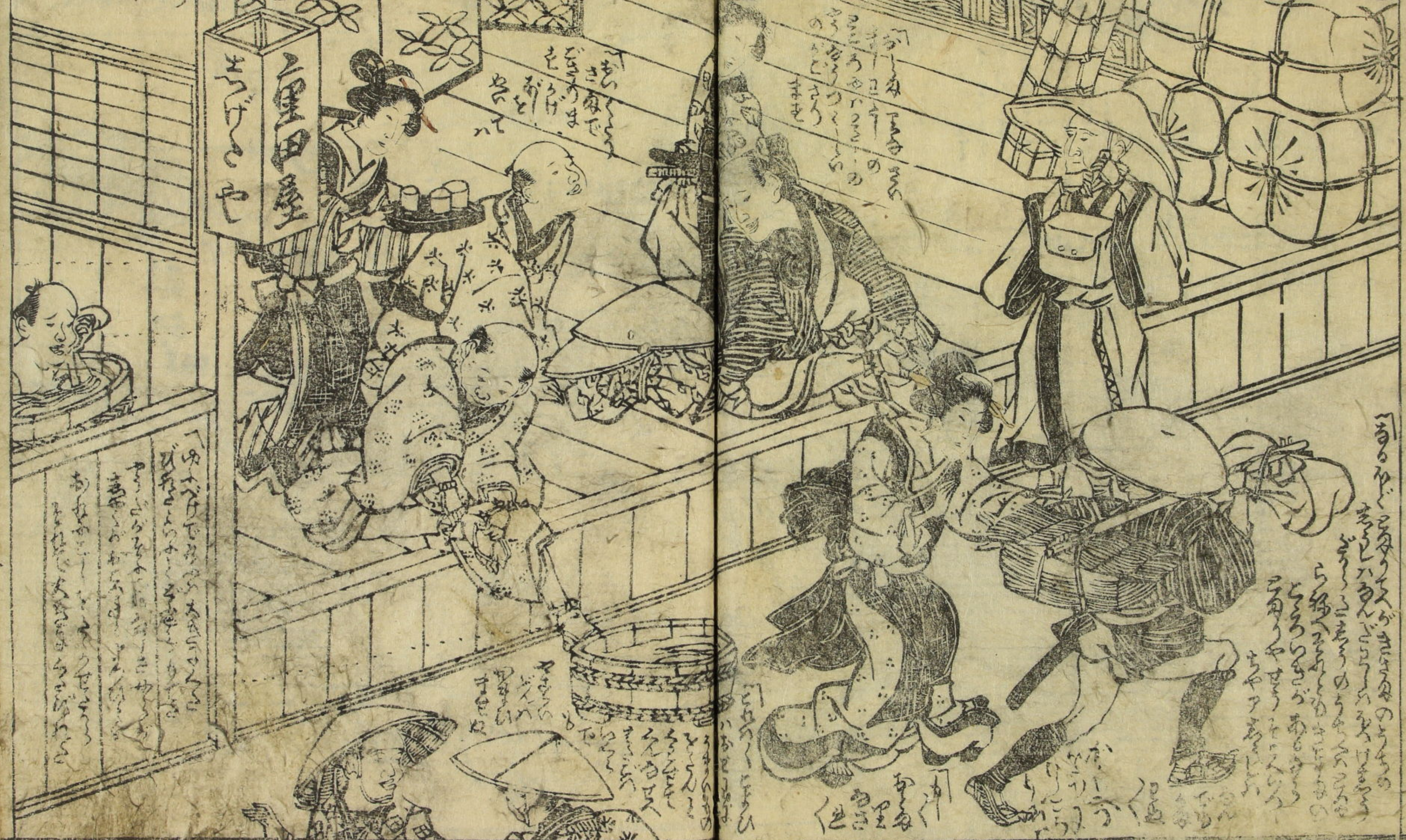
おかしな世の中をあたためての人の
 まつりあつてつるまの心
 せんきありてあらつてあり
 けんがのしんか二つあり

○ 各谷へのまつり
 ひらけまつりまつり
 けんがのしんか二つあり
 けんがのしんか二つあり

おかしな世の中をあたためての人の
 まつりあつてつるまの心
 せんきありてあらつてあり
 けんがのしんか二つあり

新業

三ノ谷一判
 小坂一判
 上戸一判
 十戸一判
 渡瀬一判
 岡一判
 白旗一判
 峠田一判
 沼原一判
 当ヶ一判
 上山一判
 杉原一判
 山崎一判
 天竺一判
 箱崎一判
 飯田一判
 尾張一判
 津軽一判
 赤坂一判



〇三ノ谷の
 三ノ谷一判
 小坂一判
 上戸一判
 十戸一判
 渡瀬一判
 岡一判
 白旗一判
 峠田一判
 沼原一判
 当ヶ一判
 上山一判
 杉原一判
 山崎一判
 天竺一判
 箱崎一判
 飯田一判
 尾張一判
 津軽一判
 赤坂一判

三田屋
 三田屋
 三田屋
 三田屋
 三田屋
 三田屋

三ノ谷一判
 小坂一判
 上戸一判
 十戸一判
 渡瀬一判
 岡一判
 白旗一判
 峠田一判
 沼原一判
 当ヶ一判
 上山一判
 杉原一判
 山崎一判
 天竺一判
 箱崎一判
 飯田一判
 尾張一判
 津軽一判
 赤坂一判

三ノ谷
 小坂
 上戸
 十戸
 渡瀬
 岡
 白旗
 峠田
 沼原
 当ヶ
 上山
 杉原
 山崎
 天竺
 箱崎
 飯田
 尾張
 津軽
 赤坂

河で越



てのりきりかき
あつひをうら
けつりては
けりては
をりては
をりては
をりては
をりては
をりては
をりては

種
くさむ
うらむ
あつひを
うらむ
けつりて
はけりて
はけりて
はけりて
はけりて
はけりて
はけりて
はけりて
はけりて

てのりきりかき
あつひをうら
けつりては
けりては
をりては
をりては
をりては
をりては
をりては
をりては

田と貝



○それゆゑは田
のまわくはつ
く
ふりては
ふりては
ふりては
ふりては
ふりては
ふりては
ふりては
ふりては

貝
油
は
糸

北
の
糸
油
は
糸

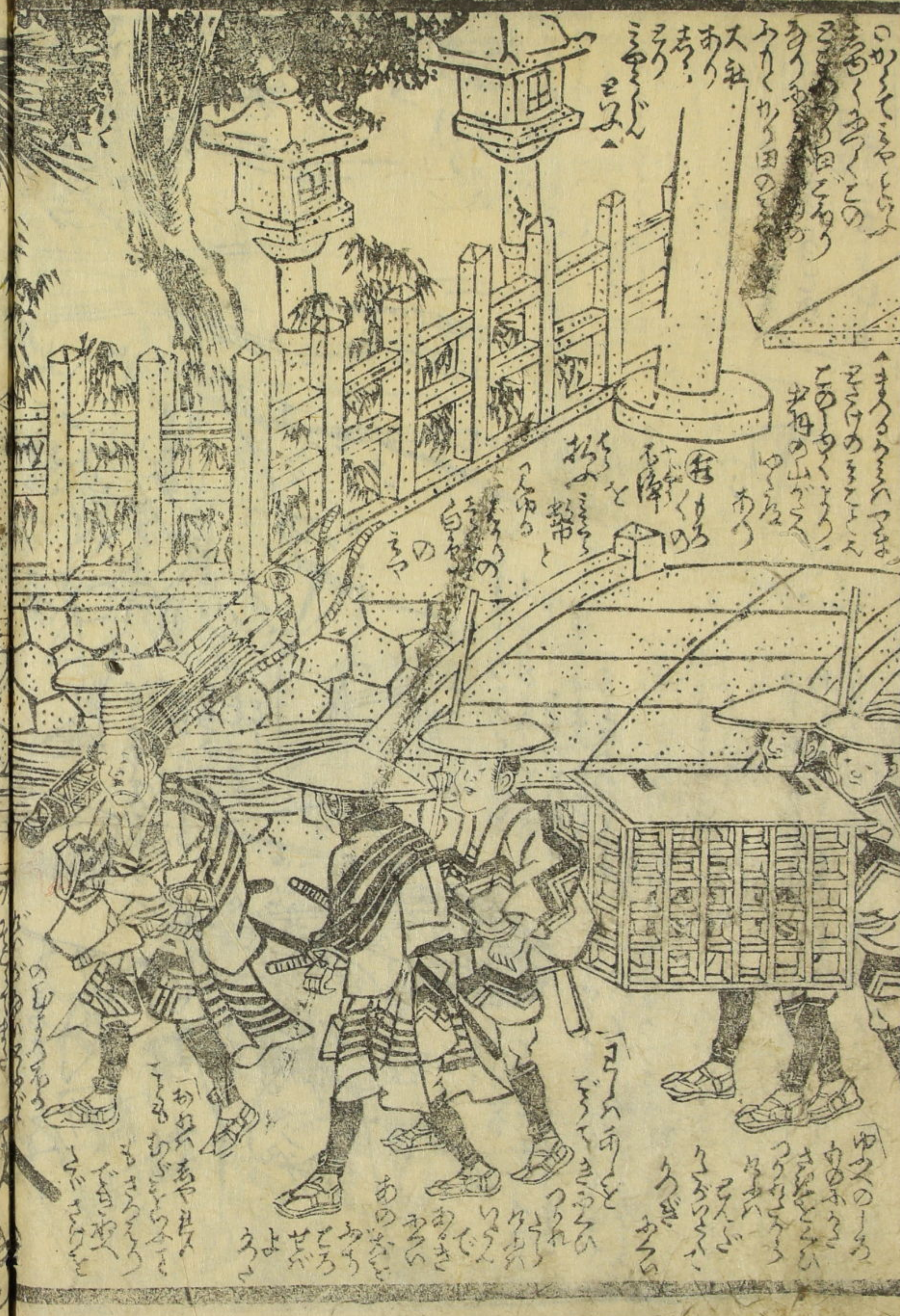
たつひをうら
けつりては
けりては
をりては
をりては
をりては
をりては
をりては
をりては

白石

○かしてやるとし
まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの

まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの

まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの



宮

○中丁とあるは
かきく春まであつこの
まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの

まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの

まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの

まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの
まうくあつこの



火の河原

ついでに世のあつてもいふまで
大らかのあつてもいふまで
おのれもいふまでいふまで
おのれもいふまでいふまで
おのれもいふまでいふまで
おのれもいふまでいふまで
おのれもいふまでいふまで
おのれもいふまでいふまで
おのれもいふまでいふまで
おのれもいふまでいふまで



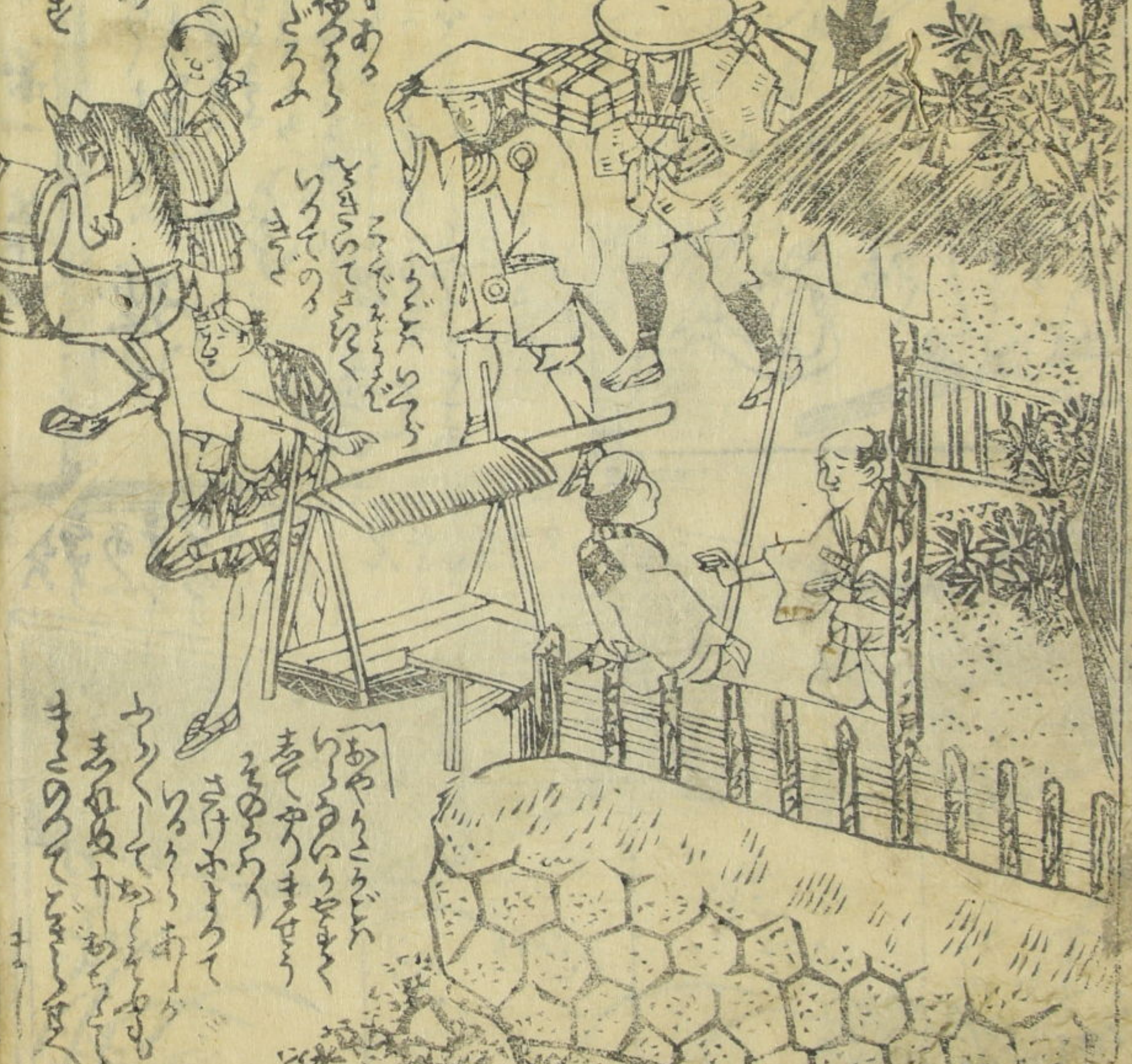
あつてもいふまで
あつてもいふまで
あつてもいふまで
あつてもいふまで
あつてもいふまで
あつてもいふまで
あつてもいふまで
あつてもいふまで
あつてもいふまで
あつてもいふまで
あつてもいふまで
あつてもいふまで
あつてもいふまで
あつてもいふまで
あつてもいふまで



あつてもいふまで

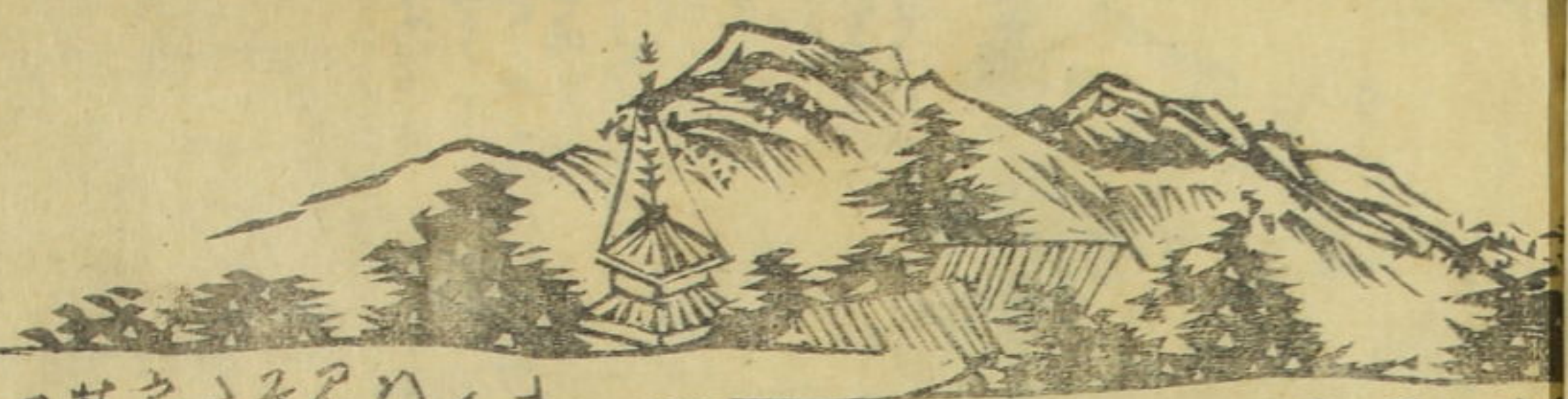
追船

のたのみのや
まのたのみの
あつちよ作
このたのみの
あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作



あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作

木の観



まのたのみの
あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作



あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作
まのたのみの
あつちよ作

岩 沼



いちはね
まきまき
きんしすて
さるのとら
のゆき
さん
ま
ま

しんしすて
さるのとら
のゆき
さん
ま
ま



い
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

い
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

増田



つもとせあらきて
 まつ田の多きま
 りくけりけるさる川の
 ありけり極ねち
 まるてあつあつ
 夕日上人の
 まよてあつあつ
 とののま

いづれもあつ
 〇ちんちんこの
 どろまてくま
 つてまて
 けりまてこの
 ちんちんのま
 こひんちん
 けりまてあつあつ
 のひんちん
 まよてあつあつ
 まよてあつあつ

〇ちんちんこの
 どろまてくま
 つてまて
 けりまてこの
 ちんちんのま
 こひんちん
 けりまてあつあつ
 のひんちん
 まよてあつあつ
 まよてあつあつ

いづれもあつ
 〇ちんちんこの
 どろまてくま
 つてまて
 けりまてこの
 ちんちんのま
 こひんちん
 けりまてあつあつ
 のひんちん
 まよてあつあつ
 まよてあつあつ

いづれもあつ
 〇ちんちんこの
 どろまてくま
 つてまて
 けりまてこの
 ちんちんのま
 こひんちん
 けりまてあつあつ
 のひんちん
 まよてあつあつ
 まよてあつあつ

いづれもあつ
 〇ちんちんこの
 どろまてくま
 つてまて
 けりまてこの
 ちんちんのま
 こひんちん
 けりまてあつあつ
 のひんちん
 まよてあつあつ
 まよてあつあつ

四梅のあつあつ
 まん柱のあつあつ
 ちんちん
 まよてあつあつ
 まよてあつあつ
 まよてあつあつ

四梅のあつあつ
 まん柱のあつあつ
 ちんちん
 まよてあつあつ
 まよてあつあつ
 まよてあつあつ

四梅のあつあつ
 まん柱のあつあつ
 ちんちん
 まよてあつあつ
 まよてあつあつ
 まよてあつあつ

四梅のあつあつ
 まん柱のあつあつ
 ちんちん
 まよてあつあつ
 まよてあつあつ
 まよてあつあつ

まよてあつあつ

まよてあつあつ

まよてあつあつ

まよてあつあつ

町中

○中田の一日の出来事
 けふもあつち中田の一日の出来事
 せんざいのあつち中田の一日の出来事
 あつち中田の一日の出来事
 あつち中田の一日の出来事
 あつち中田の一日の出来事

① 中田の一日の出来事
 まん申まの
 あつち中田の一日の出来事
 ② 中田の一日の出来事
 まん申まの
 あつち中田の一日の出来事

③ 中田の一日の出来事
 まん申まの
 あつち中田の一日の出来事



あつち中田の一日の出来事
 あつち中田の一日の出来事
 あつち中田の一日の出来事
 あつち中田の一日の出来事
 あつち中田の一日の出来事

あつち中田の一日の出来事
 あつち中田の一日の出来事
 あつち中田の一日の出来事
 あつち中田の一日の出来事
 あつち中田の一日の出来事



あつち中田の一日の出来事
 あつち中田の一日の出来事
 あつち中田の一日の出来事
 あつち中田の一日の出来事
 あつち中田の一日の出来事

五右衛門茶屋



Handwritten text in the upper left of the tea house scene, including a circled character and several lines of vertical script.

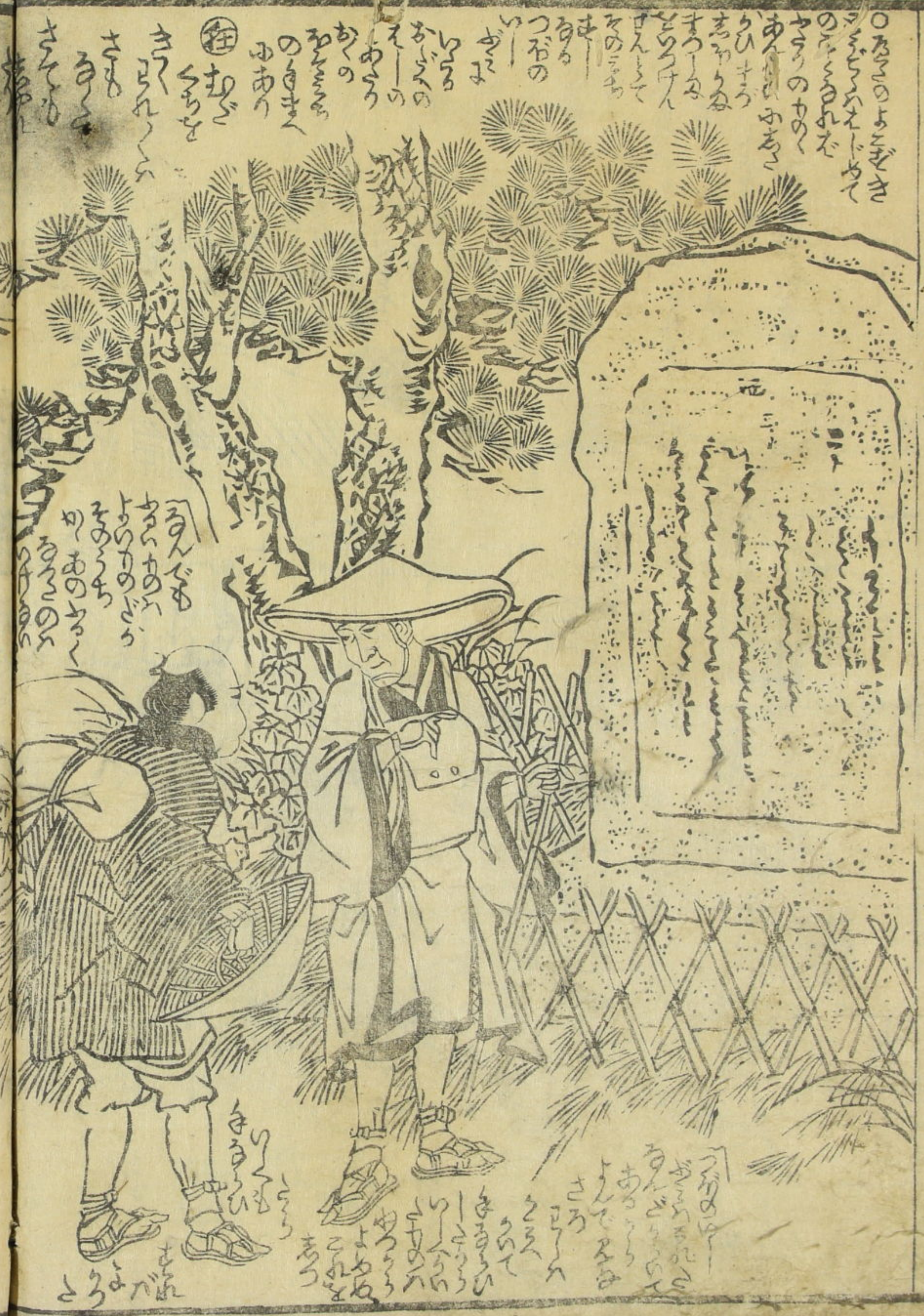
芭蕉の道



Handwritten text in the upper left of the landscape scene, including a circled character and several lines of vertical script.

Extensive handwritten text surrounding the lower illustration, including a circled character and multiple columns of vertical script.

奥細道



此の山は
奥細道の
名所なり

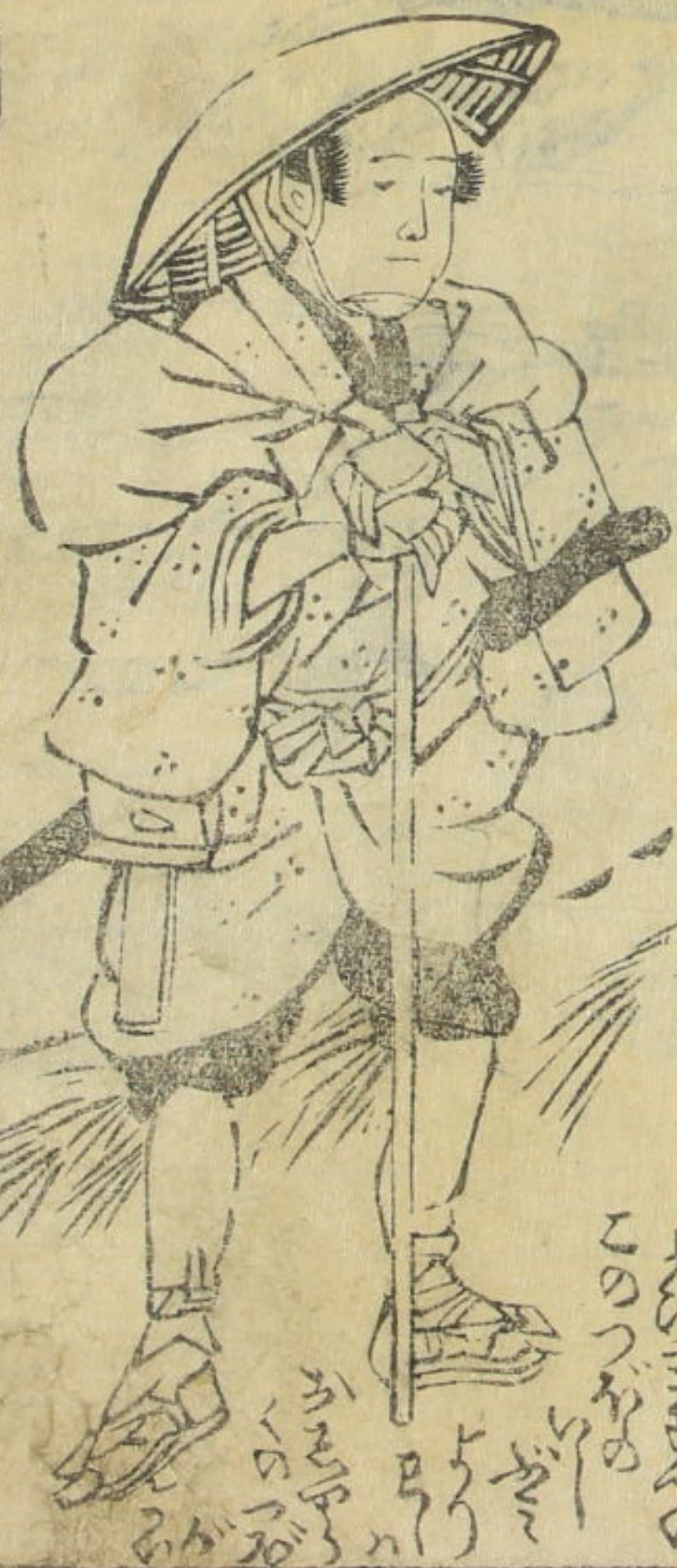
龍鋪

壺石碑銘

- 去京 一十五百里
- 去蝦夷国界 一百二十里
- 去常陸国界 四百十二里
- 去下野国界 二百七十四里
- 去鞆国界 三十里

此城神龜元年歲次甲子按察
使兼陸守巧軍從四位上勳四等
大野朝臣左人之所置也天平寶
字六年歲次壬寅參議東海東
山前度使從四位上仁部少卿兼按察使鎮守
將軍兼兼惠美朝臣朝儀修造也
天平寶字六年十一月一日

藤原毛發端全冊

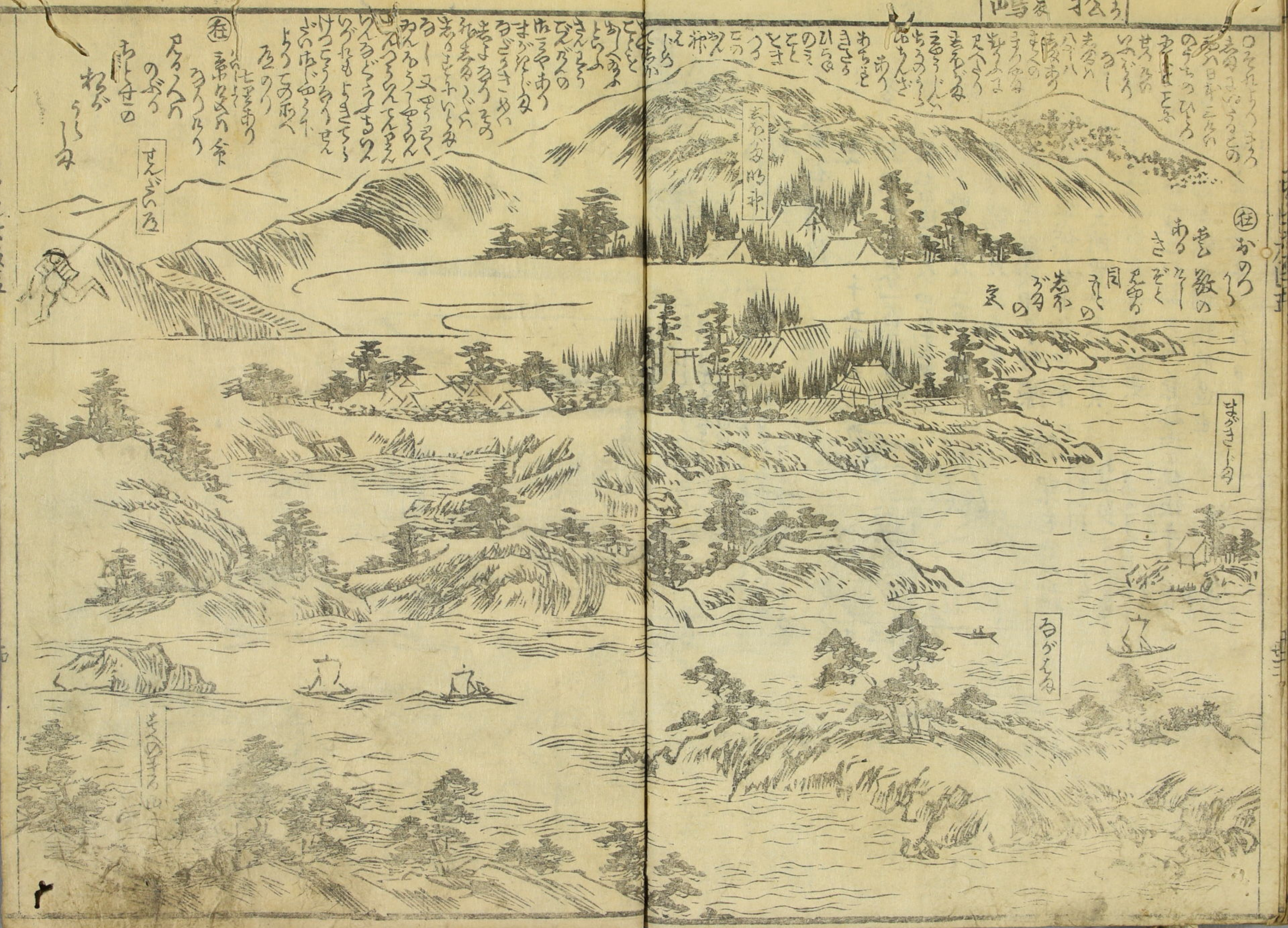


此の山は
奥細道の
名所なり
天平寶字六年十一月一日

五十二

五十二

松島



口をせりしりり
 波の日本はなる
 のちのひる
 五月まゝ
 五月の
 五月の
 五月の
 五月の
 五月の
 五月の
 五月の

おのり
 あけ
 きよ

松島
 の
 の
 の

松島

松島

松島

松島
 の
 の
 の
 の
 の
 の
 の
 の
 の
 の
 の
 の

松島
 の
 の
 の
 の
 の
 の
 の
 の
 の
 の
 の
 の

松島

松島

瑞岩寺



このまわりの
 お寺のまわりの
 風景が
 美しい
 ところです
 など

あんなに
 きれいな
 ところ
 は
 ない
 など

あんなに
 きれいな
 ところ
 は
 ない
 など

煮塩



このまわりの
 風景が
 美しい
 ところです
 など

あんなに
 きれいな
 ところ
 は
 ない
 など

あんなに
 きれいな
 ところ
 は
 ない
 など

陸奥東山道八箇國の春日奉東北の編作
 六郡後五十四郡と改稱古の六郡と改て一里と改て
 奥地の土民六里と改て今の一里計子ありと改て

郡	大	新	玉	宇	丹	百	五十四郡
大	新	玉	宇	丹	百	五十四郡	一之宮
大	新	玉	宇	丹	百	五十四郡	安積
大	新	玉	宇	丹	百	五十四郡	磐城
大	新	玉	宇	丹	百	五十四郡	標葉
大	新	玉	宇	丹	百	五十四郡	信夫
大	新	玉	宇	丹	百	五十四郡	磐城
大	新	玉	宇	丹	百	五十四郡	磐城
大	新	玉	宇	丹	百	五十四郡	磐城
大	新	玉	宇	丹	百	五十四郡	磐城

寐小便の大奇薬 一匁代錢三百匁

此薬茶いし海を奉久病癒すも大人小兒男女を
 包下包そ際する奇とやいん妙とやいん是か
 徳人のむじに用る小一人も治せたりと云ふのふく徳
 のきめ不減を世よむるめ体内の男女終小便そそ
 一むとのをそそふ世中れ薬茶といふむむむむむむ
 なくお世自芳れ歎の心と生む月ひてそ病苦を癒す

江戸中橋廣小路町

本家調合所 書物屋 北林堂 西宮 弘作 備

樂天堂佐藤了翁

卷末

七

九

一

二

三

四

五